

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 17 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520571

研究課題名(和文)日本語を母語としない外国人生徒の読解力を育成するための基礎的研究

研究課題名(英文)A study on acquisition and instruction of Japanese reading comprehension among L2 students

研究代表者

五味 政信(GOMI, Masanobu)

一橋大学・国際教育センター・教授

研究者番号：00225674

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本語を母語としない生徒を対象に、彼らが国語教科書に掲載されている本文の読解を進めるために必要な日本語力を明らかにし、その学習方法を提案することを目的とする。研究の結果、日本語を母語としない生徒が本文を読解するには、文法、語彙、漢字、背景知識という4つの分野において、日本人生徒とは違った理解確認および学習方法が必要であることがわかった。そこで、その研究成果を教材という形で具体化した。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to find out what reading skills are necessary for L2 students attending junior high schools in Japan to understand Japanese textbooks written for L1 students and to create effective educational material to acquire these skills. The result of our research shows that L2 students need to acquire learning methods different from L1 students from the point of view of grammar, vocabulary, Kanji characters and background knowledge. We applied this result to Japanese material development and have published supportive material for L2 students who learn reading comprehension in the classroom with L1 student.

研究分野：日本語教育

キーワード：日本語教育 外国につながる生徒 教科学習 国語教育 読解教育

### 1. 研究開始当初の背景

日本語を母語としない外国人生徒にとって、現在最も喫緊の課題となるのは、CALP(学習言語能力)の育成である。なぜなら、教科学習を促進することが外国人生徒の進学、ひいては就職に影響するからである。実際、母国で成績がよかった生徒が、日本でよい成績がとれず、不就学につながってしまうケースは多い。

この課題への取り組みとして、研究分担者らは2010年博報児童教育振興会より助成を受け、中学1年数学の文章題の練習帳『これで教科書がよくわかる! 数学サバイバル日本語 中学1年』を作成した。この練習帳は、今までにない「外国語としての日本語」という観点で数学の文章題の解説をしているため、現在多くの教育現場で活用され、反響を得ている。

そしてそれを受け、本研究では国語科を対象に、新たな取り組みを行うことにした。国語を対象とした理由は、学校教育で主要科目とされる5教科のなかで、数学、理科、英語がある程度日本語と教科内容の習得を切り離すことができるのに対し、国語や社会は日本語と教科内容が切り離しにくいからである。特に国語は母語としての国語能力の育成を図ることが目的であるため、語彙や表現の豊富さに、外国人生徒は対処しきれないのが現状である。しかし、高校受験でも、さらには殆どの国立大学、文系私立大学受験でも国語は必須受験科目に入っている。そこで、外国人生徒が現代文を読解するにあたって障壁となる課題を明らかにし、その課題を克服するための教材を作成することを構想した。

なお、日本語教育と国語科学習を対象にした国内の研究とその成果の中で、現在教育現場で活用されている研究成果に、「学校教育におけるJSLカリキュラム(中学校編) 国語科」(文部科学省初等中等教育局国際教育科編 2007)と、「日本語を母語としない児童を教科学習に入りやすくさせるための日本語テキスト作成」(光元聰江 1998)がある。

前者は日本語を母語としない生徒が国語科の授業に参加することを目的とし、後者は国語科の教科書の内容をリライトして生徒の内容(ストーリー)理解を促進することを目指したものである。しかし、日本語を母語としない生徒が国語科教科書の現代文をそのまま理解するために必要な日本語力育成を目指すという観点での研究は、管見の限り、本研究が最初である。

### 2. 研究の目的

日本語を母語としない外国人生徒は、自分が知っている日本語でなんとか国語教科書に掲載されている本文の理解を進めようと試みるため、例えば「畑の作物の出来にもむらがある」という文を「畑の作物ができる村がある」と解釈することがある。また、家庭で日本語を使う環境にない場合「ちっとも」

という日本人生徒なら誰もが知っている副詞を知らないこともある。

本研究では中学校国語科の現代文の読解を行うにあたって、どのようなことが読解の障害になるかを語彙、文法、漢字、背景知識の4つの観点から分析し、日本人との対照を通して日本語教育的にどのような手当が必要であるかを明らかにする。また、彼らの家庭環境など個々の属性も考慮した調査分析を行い、社会的要因の影響も明らかにする。

### 3. 研究の方法

日本語を母語としない生徒が国語の現代文読解を進める際に意味を誤る主な原因は、外国語としての日本語学習時に未学習であること、彼らを取り巻く日常の生活環境ではあまり耳にすることがないこと、の2つが考えられる。そこで、本研究では上記2点を踏まえて、教科書分析と生徒の文章理解の実態調査を行った。

#### (1) 生徒の実態調査

生徒を対象とした事前調査

横浜市教育委員会の協力の下、日本語を母語としない生徒と日本人生徒を対象に、生徒1名：調査協力者1名：通訳1名を1組とする計8組で、中学国語教科書に掲載されている小説および説明文を読み進め、文章理解の実態調査を行った。

国語科担当教諭を対象とした実態調査

同委員会の協力の下、中学の国語科を担当する教諭3名(各学年ごとに1名)にインタビュー調査を行い、実際の授業展開と生徒に求められる文章理解のポイントを探った。

生徒を対象とした本調査

同委員会の協力の下、横浜市の中学校に通う日本語を母語としない生徒と日本人生徒に対し、得た調査結果を基に作成した記述式問題(文法、語彙、漢字、背景知識の4分野)および背景知識に関するインタビュー調査を実施した。また、インタビューの際に生徒の言語使用と学習環境についても聞き取った。

さらに、上記中学校には非漢字圏の生徒がほとんど通っていなかったため、追加調査として横浜にあるフリースクールと八王子にある支援団体の協力を仰いで、非漢字圏から来日した生徒への同調査も行った。

#### (2) 教科書分析

困難点の整理

生徒の実態調査の結果を踏まえて、文法、語彙、漢字、背景知識に関する問題点(日本語を母語としない生徒が「どんな点」を「どのように誤解するか」)について整理した。

コーパスの作成

中学国語教科書に出てくる本文を取り出し、コーパスを作成した。

コーパスの分析

で作成したコーパスを利用して、で挙

がった項目を形態素解析を行い、必要に応じて手作業で集計した。

#### 指導項目の選定

の結果を踏まえて、教材で扱う必要のある項目を選定した。

#### 4. 研究成果

本研究の成果を、文法、語彙、漢字、背景知識の4分野に分けて報告し、それをどのように教材化したかについて述べる。

##### (1) 文法

まず、JSL生徒に対して国語教科書の文章を題材とした読解調査をおこなったところ、「のだ」「ではないだろうか」などの文末表現、「としたら」「にもかかわらず」などの接続表現、長い連体修飾などが文章理解のつまずきの要因となっていることが明らかになった。さらにこれらの文法形式について中学国語教科書のコーパスを対象に調査したところ、「ではないだろうか」は説明的・文学的文章双方に高頻度で出現し、理由を表す「のだ」は文学的文章に比較的多く現れるといった特徴がみられた。あわせて、実際の国語の読解問題を検討した結果、これらの形式は、筆者の強い主張などを表現する際に用いられることから文章理解のかぎとなっていることがわかった。

教材化にあたっては、調査・分析の結果明らかとなった、JSL生徒がつまずきやすい「文末表現」「接続表現」を取り上げ、キーとなる文法表現を短文において理解する基礎練習問題と、長文の中でキーとなる文法をふまえて内容を理解する応用問題を作成した。また、指導者がポイントをおさえて説明するための解説や、文法表現リストも加えた。

##### (2) 語彙

まず、JSL生徒に対するプレ調査において、大きく分類して「(オノマトペを含む)副詞」「複合動詞」「慣用表現」などが、特に生徒の理解度が低いことが分かった。これらのカテゴリに入る表現は、特に重点的な指導が必要だと考えられるが、教科書で使われる語彙は、収録される文章によって異なるため、指導すべき語を具体的に特定することは困難である。

そこで、教科書からそれぞれのカテゴリにあてはまる表現を選び、指導者が効果的に教えられるようにすることを目的とした教材を作成することにした。指導者側が、語彙の特徴に応じた方法で指導することで、使用される語自体が変わっても、適切な指導ができることを目指している。

##### (3) 漢字

JSL生徒に対しプレ調査を行ったところ、国語科教科書の単語中に含まれる漢字の理解度が、その漢字により構成される文章の読解に影響することが明らかになった。次いで行

った本調査では、読解に影響を与えうる漢字側の要因を探り、スキヤフォールディングする際の手がかりとなる要因を明らかにした。その結果、「部首」、「振り仮名ふりや読み上げ」及び「漢字熟語の特徴」の3つの項目の解答率が低いことが明らかとなった。

教材化にあたっては、学習者一人ひとりの違いを明らかにし、学習を進める方向性を示した「生徒の漢字タイプ」のチャートを行うことで、各学習者に適した学習方法を選択できるように留意し作成した。また、調査・分析の結果から明らかとなった上記3つの項目の理解を深める支援・学習方法の提起を行い、さらに「もう一步」の項目を学習することにより漢字知識の補強を目指した。

##### (4) 背景知識

まず、生徒へのプレ調査を通して、例えば国道という概念が母国語でも理解できないなど背景知識に関する違いを探る必要性がわかった。次に、国語教師へのインタビュー調査で、本文読解を促すために教師が生徒の背景知識を活用することがわかった。そこで生徒への本調査では、筆記およびインタビュー調査を行い、日本人生徒と日本語を母語としない生徒の背景知識に関し、相違の有無、相違がある場合にはその原因を探った。その結果様々な相違点があり、原因も複数に及ぶことが判明した。こうした背景知識の違いへの対策としては、「接触場面」を念頭に置いて読解を進めることが有効であると考えられる。

こうした成果を踏まえ、教材化にあたっては、本文を読み進めるうえで教師側がどのような事柄にどのような理由(観点)で背景知識の違いを想定する必要があるかを解説する形式をとることとした。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計12件)

西山日佐子

「JSL 生徒の読解に影響を及ぼす漢字と留意点—国語科読解活動を行うための漢字スキヤフォールディング—」『一橋日本語教育研究』3、pp.85-96、2015、査読あり

石黒圭

「感度を高める言葉の教育(8) 中国人留学生の感覚」『指導と評価』60-11、pp.42-44、2014、査読なし

石黒圭

「感度を高める言葉の教育(7) 留学生はオノマトペが苦手」『指導と評価』60-10、pp.45-47、2014、査読なし

庵功雄

「言語的マイノリティに対する言語上の保障と「やさしい日本語」—「多文化共生社会」の基礎として—」『ことばと文字』2、pp.103-109、2014、査読なし

石黒圭

「感度を高める言葉の教育(6) 小学校の専門語」『指導と評価』60-9、pp.39-41、2014、査読なし

石黒圭

「感度を高める言葉の教育(5) 辞書の弊害と可能性」『指導と評価』60-8、pp.38-40、2014、査読なし

庵功雄

「これからの日本語教育において求められること」『ことばと文字』創刊号、pp.86-94、2014、査読なし

庵功雄

「『やさしい日本語』研究の現状と今後の課題」『一橋日本語教育研究』2、pp.1-12、2014、査読なし

志村ゆかり

「外国人生徒と日本人生徒の背景知識の違い - 国語教科書の文章理解に関する背景知識を例に - 」『一橋日本語教育研究』2、pp.13-24、2014、査読あり

石黒圭

「『やさしい日本語』と文章の理解」庵功雄・イ ヨンスク・森篤嗣編『やさしい日本語』は何を目指すか 多文化共生社会を実現するために』( 図書収録論文 ) pp.141-155、2013、査読なし

田中牧郎

「国語教育における外来語—コーパスによる類型化を通して—」陣内正敬・田中牧郎・相澤正夫編『外来語研究の新展開』( 図書収録論文 ) pp.224-242、2012、査読なし

石黒圭

「読解とその教え方を考える」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』9、pp.1-18、2012、査読なし

#### 〔学会発表〕(計4件)

石黒圭・筒井千絵・田中牧郎・阿保きみ枝・志村ゆかり

「日本語を母語としない生徒にとっての『文章理解の壁』」2014年度日本語教育学会秋季大会パネルセッション、富山国際会議場(富山県富山市) 2014.10.11

筒井千絵

「JSL 生徒が国語の読解でつまづく要因となる文法」第10回日本語教育学会研究集会、園田学園女子大学(兵庫県尼崎市) 2014.3.8

田中牧郎

「コーパスによる学習語彙の分類」第5回 Castel/J 国際会議企画パネル「言語に関するデータベース、コーパスの構築とその活用について」名古屋外国語大学(愛知県日進市) 2012.8.21

田中牧郎

「グローバル市民社会の日本語学」日本語学会 2012年度春季大会シンポジウム千葉大学(千葉県千葉市) 2012.5.19

#### 〔図書〕(計2件)

田中牧郎

『講座日本語コーパス4 コーパスと国語教育』田中牧郎編、総ページ数未定、朝倉書店、2015年刊行予定

五味政信・石黒圭監修、筒井千絵・西山日佐子、阿保きみ枝、志村ゆかり、石黒圭著

『これで教科書がよくわかる! 国語サバイバル日本語 中学』74ページ、わかめの会、2015

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

五味 政信 (GOMI, Masanobu)  
一橋大学・国際教育センター・教授  
研究者番号: 00225674

##### (2) 研究分担者

庵 功雄 (IORI, Isao)  
一橋大学・国際教育センター・教授  
研究者番号: 70283702

石黒 圭 (ISHIGURO, Kei)  
一橋大学・国際教育センター・教授  
研究者番号: 40313449

田中 牧郎 (TANAKA, Makiro)  
明治大学・国際日本学部・専任教授  
研究者番号: 90217076

筒井 千絵 (TSUTSUI, Chie)  
フェリス学院大学・留学生センター・講師  
研究者番号: 60594083

##### (3) 研究協力者

阿保 きみ枝 (ABO, Kimie)  
一橋大学大学院・言語社会研究科・博士後期課程

西山 日佐子 (NISHIYAMA, Hisako)  
横浜市教育委員会

志村 ゆかり (SHIMURA, Yukari)  
東京経済大学・経営学部・特任講師